

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

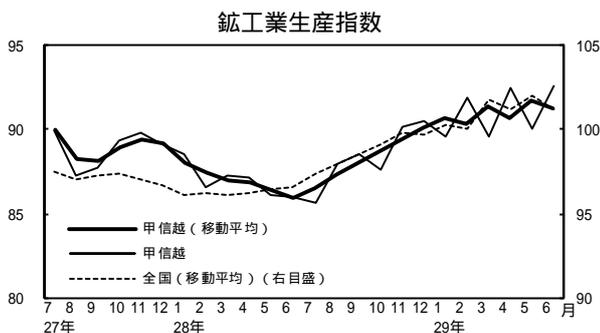
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 5 月)	今回 (平成 29 年 8 月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	緩やかな回復基調	
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	持ち直しの動きが続いている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4～6月期には、「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は、国内外の設備投資需要等を背景に増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は増加した。「輸送機械」は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
電子デバ、電気・情報通信	42.8	0.3	2.1	0.1	2.6	1.1
汎・生産・業務用機械	17.9	2.4	7.9	6.5	0.9	4.0
石油・石炭製品、化学、プラ製品	10.5	2.9	0.1	0.4	1.9	4.5
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.6	0.1	0.5	2.1	2.3	0.2
輸送機械	7.1	2.3	0.9	14.3	17.4	10.2
鉱工業	100.0	1.0	1.5	3.2	2.7	2.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。

2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

3. 甲信越は内閣府にて算出。

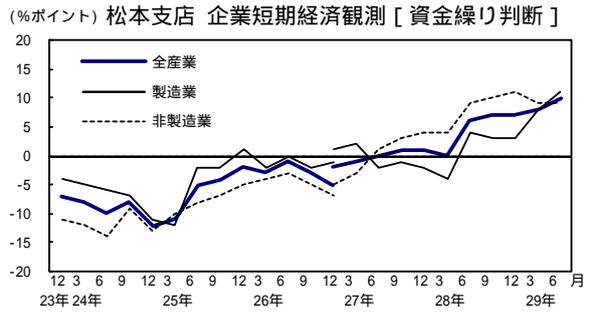
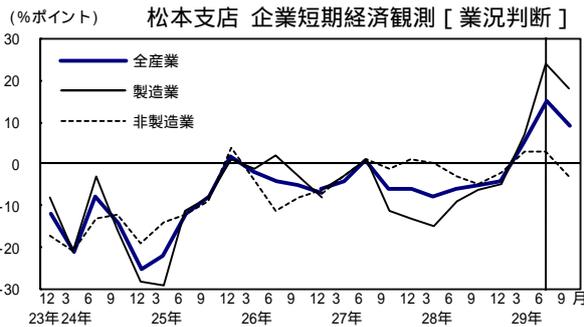
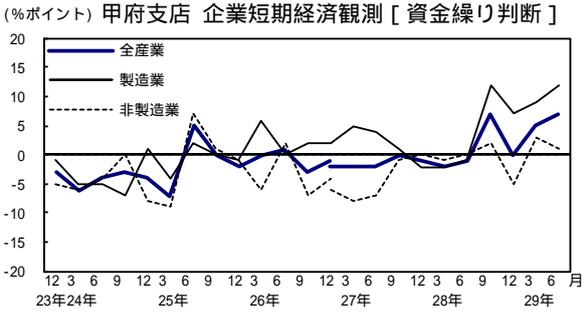
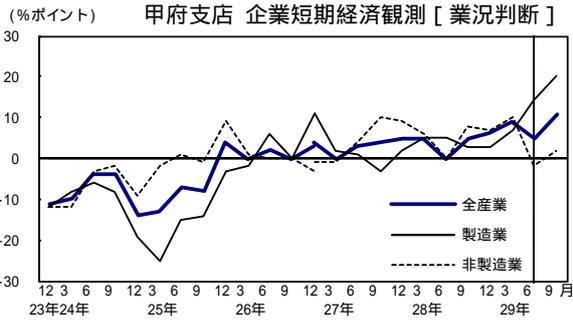
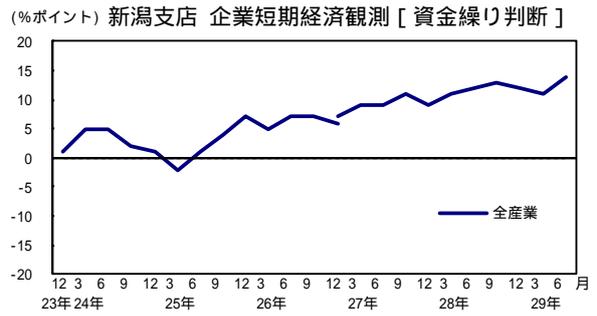
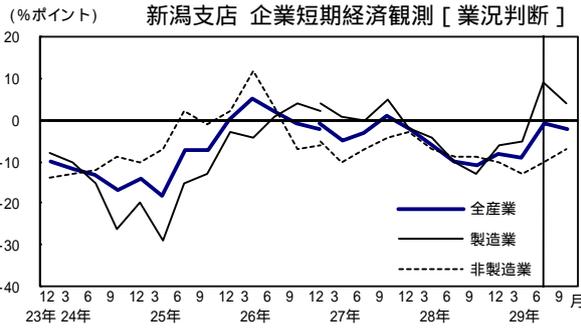
(2) 新潟支店の企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

甲府支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

松本支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

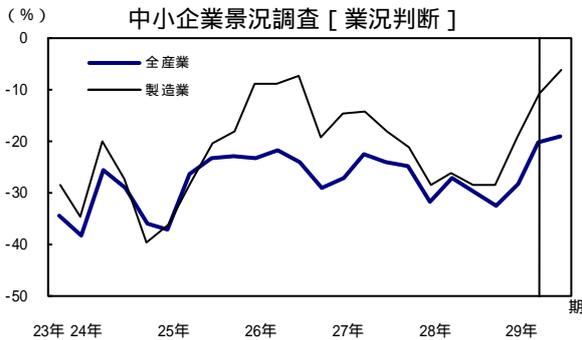
(5) 甲信越

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

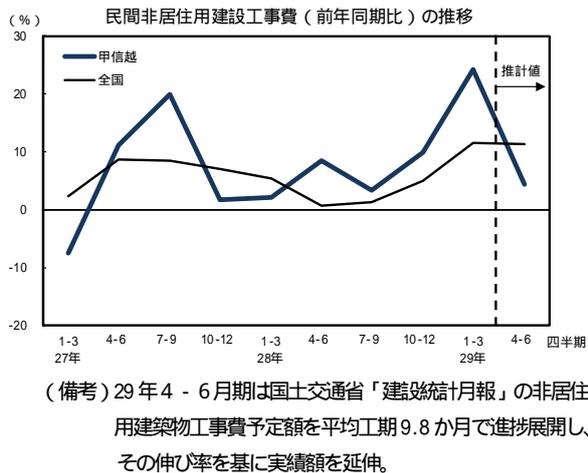


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[企業動向関連（現状）]

「百貨店や量販店の話では、月前半は好天に恵まれ好調だったようだが、梅雨明け後の天候不順で足踏み状態とのことである。今月のチラシ出稿量は前年比 84.2%、近隣町村でも同様に推移しているようである（新聞販売店〔広告〕）」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査〔設備投資（6月調査）〕

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全産業		
新潟支店	12.2 (3.9)	2.7 (7.8)
甲府支店	14.4 (7.3)	23.1 (1.3)
松本支店	5.2 (1.7)	2.7 (2.2)
製造業		
新潟支店	20.5 (3.8)	1.9 (10.3)
甲府支店	11.1 (8.5)	42.2 (0.2)
松本支店	2.1 (0.2)	5.4 (2.1)
非製造業		
新潟支店	5.3 (4.0)	7.1 (5.8)
甲府支店	18.6 (5.8)	0.5 (3.1)
松本支店	21.3 (8.5)	9.0 (2.6)

(備考) ()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

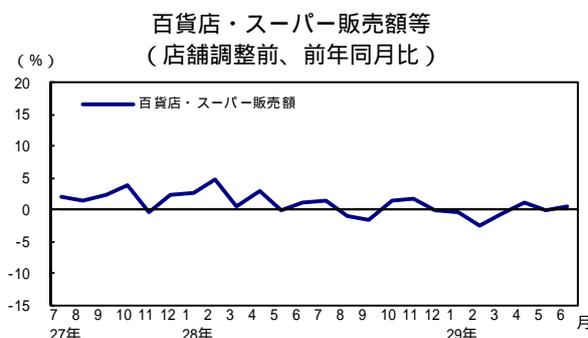
4月は前月比1.1%増、5月は同0.1%増、6月は同0.4%減となった。

百貨店・スーパー販売額

4月は、衣料品や身の回り品等は前年を下回ったが、飲食料品等が前年を上回ったため、前年を上回った。5月は、衣料品、身の回り品、家庭用品等の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。6月は、飲食料品が前年を上回ったため、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[家計動向関連（現状）]

「新型車イベント効果により、新車の受注量が上向いてきている（乗用車販売店）」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	29年4 - 6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.5	1.1	0.1	0.4
百貨店・スーパー(*2)	0.5	1.2	0.2	0.4
乗用車(*3)	15.2	14.7	12.8	17.6
(季節調整値)(*3)	13.4	14.7	2.6	0.6

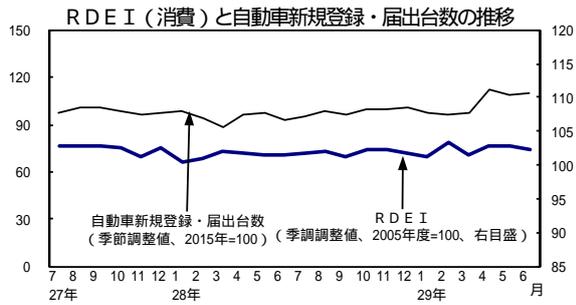
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

店舗調整前、前年同期(月)比(%)

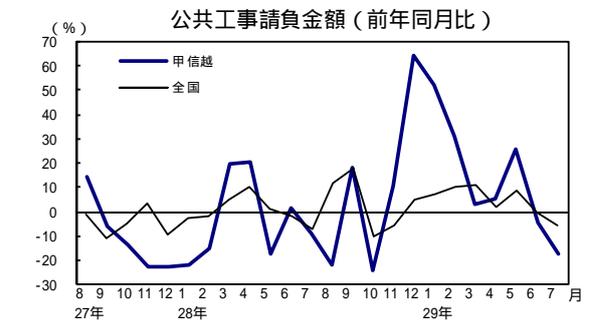
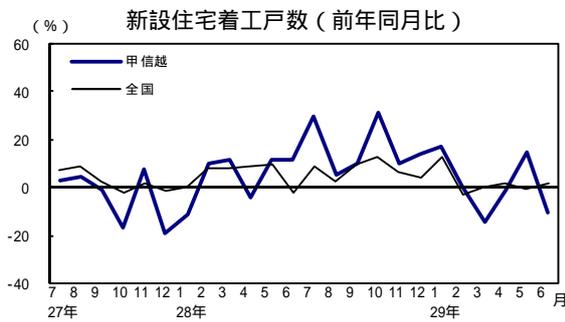
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比(%)

(5) 甲信越



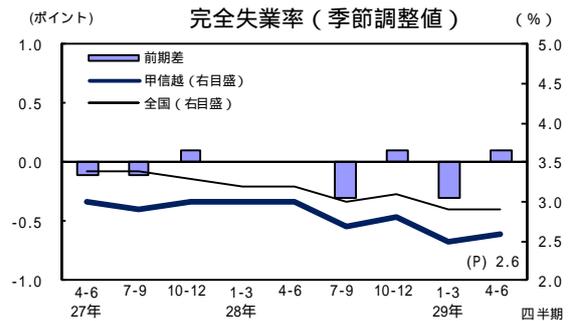
(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。
貸家が前年を上回ったものの、持家が前年を下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。
2. 4 - 6月期の値は暫定値。

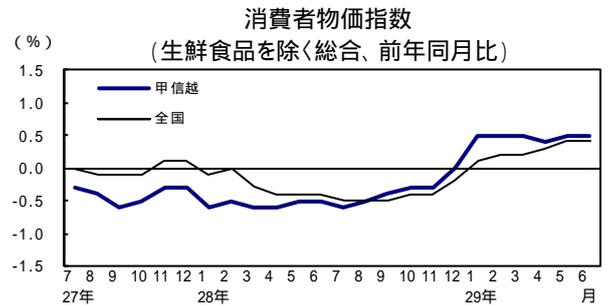
景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[雇用関連(現状)]
「大型ショッピングセンター開店による大量のパート求人で、製造業の求人に影響が出ている。パート採用は活況を呈しているものの、正社員求人には影響がほとんどない(民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数	49	54	51	70	21
(前年比)	2.0	10.0	26.1	32.1	4.5
負債総額	341	88	153	206	24
(前年比)	56.3	56.0	4.1	135.4	91.8



(備考) 甲信越は内閣府にて算出。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・人口減で、確実に客数の減少と高齢化が進み、買上点数はやや減少傾向である一方で、客単価が伸びており、売上を維持している(スーパー)

<先行き>

- ・現状では景気が良くなる要素はない。客の買上点数も減っており、特に上向くような状況にはない(百貨店)

